

那須地域農業振興計画

2016～2020

(1) 地域農業・農村の現状と課題

那須地域は、那須連山、高原山、八溝山の裾野域を中心に本州一の畜産基地が形成され、中南部には、広大な水田が広がり、米を中心に、いちご、なす、ねぎ等の園芸産地が形成されています。米の需要縮小が続く中、水田の活用方策について、更なる工夫が求められています。

園芸では、近年、アスパラガスの生産が拡大するなど、地域農業を支える柱として、園芸の更なる発展・拡大に期待が高まっています。

畜産では、酪農を中心に規模拡大が進んでいますが、輸入飼料の価格高騰やTPPによる影響が懸念されており、自給飼料の利用拡大等による畜産経営の基盤強化が求められています。

米麦では、担い手の高齢化が顕著に進んでおり、地域水田を担う安定した経営体の育成に向けて、農地の集積、集落営農の法人化、水田の条件整備が喫緊の課題となっています。

農村地域では、那珂川や那須高原等の多彩な地域資源に恵まれており、これらを農業者の所得拡大や地域活性化につなげていくための更なる取組が求められています。

(2) 計画の推進方針

那須地域の強みを最大限に生かし、県内外から意欲ある担い手を積極的に取り込みながら園芸生産の更なる拡大を図るとともに、畜産経営の基盤強化に向けて稲WCSを中心に自給飼料の生産・利用の拡大に取り組みます。また、土地利用型経営体が活躍するための条件整備を進めるとともに、地域資源や潜在マーケットを掘り起こしながら農業者の所得拡大を図ります。

那須地域の特徴を生かした

元気で魅力ある農業の実現・地域創生

園芸の生産拡大

畜産経営の
基盤強化

那須型水田農業
の構築

付加価値モデル
・交流拡大

(3) 地域戦略

地域戦略 1 那須ブランド「園芸産地の振興」

対応方向

那須地域の園芸が、地域の農業生産を支える柱として一層、発展・拡大するよう、施設園芸農家の規模拡大や米麦農家への露地野菜導入、新たな園芸担い手の確保・育成をJA・市町と一丸となって推進します。

主な指標

項目	現状(H26)	目標(H32)
○主要園芸品目の販売額※	55億円	70億円
○アスパラガスの販売額	6.3億円	10億円
○園芸品目新規生産者	20名/年	24名/年



ねぎの機械収穫(水田)

※いちご、なす、アスパラガス、ねぎ、トマト、にら、うど、しゅんぎく、きく、なし、ほうれんそう

取組方策

- 米麦農家に対し、初期投資の少ない「なす」や機械化体系が確立されている「ねぎ」、「たまねぎ」等の導入推進
- 「いちご」、「アスパラガス」、「トマト」等の施設園芸農家に対し、新品種や新たな作型の導入、地の利を生かした良質堆肥投入等を推進し、経営規模の拡大の促進
- 比較的冷涼な気候を生かした夏秋いちごの安定生産と需要拡大の促進
- 園芸志向農家等が円滑に営農・就農するための地域の研修体系構築の推進

地域戦略 2 那須の大地に根ざした「畜産経営の基盤強化」

対応方向

本州一の酪農王国、広大な水田を最大限に生かし、稲WCS等の自給飼料の生産・利用が拡大する仕組みづくりや地域の関係者との連携を促進し、収益力の高い畜産経営確立に取り組みます。

主な指標

項目	現状(H26)	目標(H32)
○水田における飼料作物栽培面積	3,326ha	4,000ha
○コントラクター数	5組織	8組織
○飼料自給率(那須地域)	24%	30%



広大な水田を活かした稲WCS収穫

取組方策

- 水田を活用した稲WCSや青刈りとうもろこし等の飼料生産の拡大推進とともに、耕種農家と畜産農家との地域内流通システムの構築支援
- 畜産農家等から飼料収穫・運搬作業を請け負うコントラクターの新規設立や既存組織の経営拡大への支援
- チーズ等の商品開発やブランド化を促進など、産地全体の高付加価値化の推進

対応方向

清廉な水源や広大な水田等の地域特性を最大限に生かし、ブランド米の産地化、農地の集積、WCS用稲、飼料用米等の計画的生産と安定した経営体の育成を促進し、米麦、園芸、畜産の調和した収益性の高い那須型水田農業の構築を進めます。

主な指標

項目	現状 (H26)	目標 (H32)
○産地指定米・特別仕分米等の割合	3.7%	10%
○経営面積50ha以上の経営体数	8経営体	20経営体
○圃場整備事業計画地区数	1地区	5地区



那須地域米の食味コンクール

取組方策

- 良食味米生産に向けた技術対策や堆肥利活用の仕組みづくりなど、ブランド米産地の構築に向けた地域の取組支援
- WCS用稲や飼料用米等の計画的な生産の推進と、地域内の受入・流通体制の構築支援
- 安定した土地利用型経営体が活躍するための水田の条件整備、農地の集積、集落営農組織の法人化等の重点的推進

対応方向

農業者が主体となる商品開発や食品事業者との連携を促進するとともに、多彩な地域資源を最大限に生かした滞在型の都市農村交流を拡大し、農業者や地域の所得が拡大する仕組みづくりを進めます。

主な指標

項目	現状 (H26)	目標 (H32)
○6次産業化総合化計画の認定数	7件	12件
○交流拠点施設利用者数	283万人	320万人
○新たな機能※を付加した交流拠点数	—	5件



那須産生乳でつくったチーズ

※魅力ある商品展開（質・量・数・価格）、地域農産物を活かした食の提供、ニーズに即した情報発信、体験機会の提供等

取組方策

- 6次産業化等の取組をベースに、農観商工のネットワークを拡大し、那須地域の特性を生かしたチーズやパン等の商品開発の促進
- 道の駅を基点とした農村回遊の企画や農産物直売所の集配システム導入など、交流拠点の機能強化と拠点間の連携強化への支援
- 交流拠点や地域資源等の情報を一元化し、都市住民の視点に立った情報発信を行うことによるグリーン・ツーリズムの促進